

## 聴く力

(国分秀男さん談)

8

春浅い早朝からの経営者対象の勉強会で、「日本一への道」という演題で話をさせていただきました。

最前列中央に食い入るように耳を傾ける青年がいました。どこかの会社の次期社長となる人かもしれないと感じる一方、「この若者は只者ではない！」と直感しました。ものすごく「聴く力」を持ったその青年は、きつと将来、すばらしい経営者になると予感させられました。

講演終了後、彼の出した名刺を見て驚きました。そこには「花巻東高校野球部監督・佐々木洋」と書いてあったのです。当時は無名の野球監督で、三十一歳でした。

朝六時開始のセミナーに参加するには、遅くとも五時に起床して講演会の会場に駆けつけなければなりません。寒い朝に眠い目をこすって勉強会に駆けつけるこ

とに只者ではないと直感した次第です。

その三か月後、私の予想通り夏の甲子園大会「岩手県予選」で優勝し、監督として初の甲子園出場を果たすのです。さらに、その四年後、平成二十一年には「岩手から日本一へ」のキャッチフレーズを室内練習場に掲げ、現在、シアトルマリナーズで活躍中の菊池雄星投手を擁して全国選抜大会で見事準優勝を果たしたのです。

花巻東高校といえは、もう一人強烈に印象に残る生徒がいます。平成二十四年の文化講演会に招かれ、「夢を叶える」の演題で話をしたときでした。先生と生徒で約千人の体育館は超満員でした。

指導がよく行き届いている様子で、全員が真剣に耳を傾けてくれましたが、どうしても一人の生徒の「聴く力」に惹き付けられて、そこに顔が何度も向いてしまっています。背筋を伸ばし、うなずきながら聴く姿を見せていたのは、アメリカの大リーグで大活躍中の大谷翔平選手でした。百校近くの学校で講演させてい

ただいていますが、個人的には「ナンバーワンの聴く力」を持った生徒でした。彼は高校三年生でしたが、驕おごった様子は微塵みじんもなく、さわやかな眼で食い入るように聴く姿は、佐々木監督との初対面のときと同様に「只者ではない」と感じさせるのに充分でした。その後、稀有けうの「二刀流選手」として大活躍のニュースを見るたびに「素直に人の話に耳を傾け、それを自分の生活に素直に取り入れる」彼の成長ぶりには、ただただ驚くばかりです。

(以下略)

国分秀男さんは元・古川商高女子バレーボール部監督、元・東北福祉大学特任教授です。

私の親友の国分先生は、高校バレー界で全国優勝を通算十二回達成されています。その達人の国分先生は、壇上から多くの聴衆の中で大谷翔平選手を見つけられました。

「類は友を呼ぶ」の証明でしょうか。すばらしいことです。